

藤枝市文学館企画展



# 小川国夫 「アポロンの島」

—地中海の光の中で—

2020年4月11日(土)～5月31日(日)

静かな気がします

永遠に今日のように

この小島では、不安がなくて、



藤枝市郷土博物館・文学館

静岡県藤枝市若王子500(蓮華寺池公園内) 藤枝市郷土博物館・文学館 検索

TEL 054-645-1100 FAX 054-644-8514 muse@city.fujieda.shizuoka.jp

休館日: 月曜日(4/20・4/27は開館)、5/7(木) | 開館時間: 午前9時～午後5時 | 入館料: 大人200円(団体20名以上160円)、中学生以下無料、障害者手帳等をご提示の方は無料

【藤まつり期間】4/18～5/5は無休で開館(入館無料)

◇同時開催◇ 博物館企画展 昭和のオリンピックと藤枝—なつかしのオリンピックグッズ勢揃い—

# 小川文学の原点「アポロンの島」

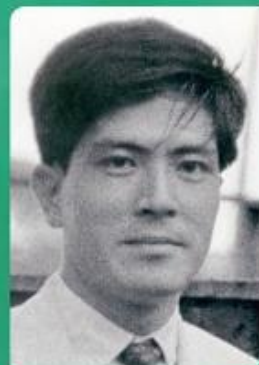
小川国夫は、東京大学在学中の昭和28(1953)年に、フランスへ私費留学し、その約3年の間に、スペイン、イタリア、ギリシャ、北アフリカなど地中海沿岸の国々を、イタリア製スクーター<sup>ヴェスパ</sup>Vespaで旅しました。

その経験に基づいて、昭和32(1957)年6月、同人誌「青銅時代」創刊号に「アポロンの島と八つの短篇」を発表します。10月には、私家版「アポロンの島」を自費出版しますが、売れたのはたった1冊でした。この1冊を買ったのが作家・島尾敏雄であり、島尾が朝日新聞にてこの「アポロンの島」を絶賛したことから、小川の名は全国へ知られていくこととなります。

今回の展示会では、小川文学の原点ともいえる「アポロンの島」と、地中海沿岸の旅をもとに生まれた『生のさ中に』<sup>ゆうし ざいそう</sup>『遊子随想』の3作品を取り上げます。

また、昭和39(1964)年に開催された東京オリンピックで、小川がフェンシングのフランス語通訳を務めた際の関連資料も合わせて展示します。

2020年の東京オリンピックイヤーに合わせて、発祥の地でもあるギリシャを始めとした地中海沿岸の風景を、作家・小川国夫の目を通してお楽しみください。



昭和30年頃

おがわくに お  
**小川国夫** (1927-2008)

静岡県藤枝市生まれ。自らを「枝っ子」と称して、藤枝市で生涯執筆活動を続けた。「内向の世代」を代表する作家と呼ばれ、昭和61年に第13回川端康成文学賞、平成6年に伊藤整文学賞、平成11年に読売文学賞小説賞、平成12年に日本芸術院賞を受賞。平成17年には、国の荣誉機関である日本芸術院の会員となっている。代表作に「アポロンの島」、「逸民」、「悲しみの港」などがある。



「アポロンの島」原稿



『アポロンの島』(私家版)



小川が旅で使った地図とタバコ入れ

## 関連イベント

【岩崎芳生氏講演会】

### 小川国夫初期文学 —青春の香り—

初期の小川作品を取り上げ、藤枝の町で生き生きと描かれた若者たちにスポットを当て、解説します。

4月11日(出) 14:00~15:00

【場 所】 文学館講座学習室

【講 師】 岩崎芳生氏(作家)

【受講料】 300円(中学生以下無料)

【申込み】 電話・メール・FAXで、郷土博物館・文学館まで

【小川光生氏講演会】

### 小川国夫と スポーツ



父、小川国夫とスポーツの関わりについて、自身もスポーツに深く関わる講師が、オリンピックなどの話を交えながら語ります。

5月10日(日) 14:00~15:30

【場 所】 文学館講座学習室

【講 師】 大阪芸術大学文芸学科特任教授  
小川光生氏(小川国夫三男)

【受講料】 300円(中学生以下無料)

【申込み】

4/17(金)より電話・メール・FAXで、郷土博物館・文学館まで

【入館者対象】申込み不要。直接会場へ。

【ギャラリートーク】

### 小川国夫、地中海の旅

4月18日(出)	14:00~ (1時間程度)
4月25日(出)	
5月2日(出)	

【場 所】 文学館展示室

【講 師】 澤本行央(当館職員)

### rhythm&accord~fennel アコーディオンライブ

5月24日(日)	①11:00~11:45
	②14:00~14:45

【出演】

アコーディオン  
女性デュオ「fennel」

【会場】 文学館講座学習室

